



TITLE:

精系静脈瘤 (臨床講義)

AUTHOR(S):

磯部, 喜右衛門; 猪木, 隆三

---

CITATION:

磯部, 喜右衛門 ...[et al]. 精系静脈瘤 (臨床講義). 日本外科宝函 1926, 3(6): 1238-1240

ISSUE DATE:

1926-11-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/199998>

RIGHT:

## 精系靜脈瘤 (臨床講義)

教授 醫學博士 磯部喜右衛門述

助手 醫學士 猪木隆三筆記

患者、植〇〇雄。二十歳。農業。

遺傳的關係。——特筆スベキモノハナイ。

既往症。患者ハ生來健全デアルガ十五歳ノ頃ニハイモル氏竇膿瘍ノ爲メニ手術ヲ受ケ、十九歳ノ時ニ軟性下疳ヲ病シダ。ソノ他ニ特記スベキ疾患ヲ知ラナイ。

現在症。本年一月頃ヨリ何等認ムベキ誘引ナクシテ。仕事ノ後或ハ長ク歩行ヲ續ケタ際ニ左側鼠蹊部ニ輕度ノ牽引性ノ疼痛ヲ感ズル様ニナツタ。

一般所見。體格中等。營養佳良。脈搏尋常デアツテ呼吸ハ胸腹型デアル。心臟及肺臟ニハ異常ハナイ。肝、脾及腎ハ觸レナイ。亦尿ニモ病的變化ヲ認メナイ。

局所所見。左側陰囊部ハ右側ニ比シ遙カニ下垂シ、且左側陰囊ノ外側ハ精系管ノ方向ニ略ボ一致シテ、著シク膨脹シ、表面ハ結節狀ヲ呈シテ居ル。殊ニ直立セシムレバ其腫脹及結節ハ更ニ著明トナル。觸診スレバ彈力性、軟ノ索條ヲ觸レ、恰カモ蚯蚓ノ一束ヲ觸レテ居ル様ナ感ガスル。コレハ辜丸ヲ懸吊スルカ或ハ仰臥セシムレバ消失スル。又左外鼠蹊輪ハ少シク擴大シ容易ニ示指頭ヲ挿入スル事ガ出來ル。左側辜丸ハ右側ノモノニ比シテ少シク軟カイ様ナ氣持ガスルモ大サハ略ボ同様デアル。其他左側ノ副辜丸、輸精管及ビ右側ノ辜丸、副辜丸、精系等ニハ異常ヲ認メナイ。

此様ナ狀態ハ先天性ノ交通性陰囊水腫若クハ精系水腫ノ際ニモ起リ得ルガ、此等ノ場合ニ於テハ通常莖狀突起ハ其上部ニ於テ強ク狹窄セラレ、腹水ノ流入ハ比較的容易デアツテモ流出ハ斯ク容易ニ出來ルモノデハナイ。尙水腫ハ圓ク或ハ

細長ク辜丸若クハ精系ヲ圍繞シテ居ツテ、容易ニ此等ヲ觸レ難クナツテ居ルバカリデナク、又此患者ノモノ、様ニ索狀ヲ呈シテ居ルモノデハナイ。尙ヘルニアトシテハ其容積ガ餘リニ小サ過ギルノデ、腸ガ内容トシテ出テ居ルモノトハ思ハレヌ。殊ニ鼠蹊輪ガ小サ過ギルノデ、腸ガ斯ク容易ニ出入シ得ル譯ニハ行カヌ。若シ強イテヘルニアトスレバ網膜ヘルニアデアルベキ筈ダガ網膜ヘルニアハ觸診上其表面ハ一般ニ小葉狀ヲ呈シテ居ツテ斯ク索狀ニ觸レルモノデハナイ。ノミナラズ網膜ヘルニア、腸ヘルニアト異リ出入自在ナモノデナイカラ、體位ニヨリテ斯ク容易ニ其容積ヲ變ズルコトノ出來ルモノデハナイ。仍チ本病ハ精系靜脈ガ著シク擴張シ、伸長シ蛇行シテ居ルコロノ精系靜脈瘤デアアル。此精系靜脈ノ怒張ハ鼠蹊輪ノ部ヨリ下部ニ來ルニ從ツテ著シイモノデアアル、時トシテハ辜丸内ノ靜脈マデモ擴張シテ居ルコトアルモノデアアル。而シテ本病ハ性的亢奮ノ最モ高キ時代即チ血管充血ヲ起ス事ノ多イ二十歳前後ニ來ルコトガ最モ多イモノデアアル。尙ホ左側ノ方ガ右側ニ比シテ非常ニ多イモノデアツテ、本病ノ殆ンド全部ハ左側ト思ツテ居テ大シタ間違ガナイ程デアアル。即チ統計上百人中八十人ハ左側ノミ、十九人ハ左右兩側ニ來テ唯一人ダケハ右側ノミデアツタト報告セラレテ居ル。コノ左側ニ多キ理由ハ生來人間ノ辜丸ハ右ニ比シ多少下ツテ居ルモノデアツテ、其爲メニ左側ノ提辜筋等ガ弛緩伸展シ、其結果靜脈ノ逆流鬱滯ヲ來サシムルコトモ原因ノ一部分デアアルガ、主ナル原因ハ血管ノ解剖學的ノ差異ニ依ルモノデアアル。即チ右側ノ精系靜脈ハ太キ下大靜脈幹ヘ直接ニ、而カモ銳角ヲナシテ流入スルニ反シテ、左側ノ精系靜脈ハ遙カニ細キ腎靜脈ヘ、而カモ直角ヲナシテ流入スルモノデアアルカラ、右側ニ比シテ靜脈血ノ流出ハ非常ニ困難デアツテ鬱血ヲ起シ易ク、從ツテ精系靜脈瘤ガ左側ニ來ルコトガ多イノデアアル。然シ此左側精系靜脈瘤ガ總テノ人ニ來ナイ事ヨリ想像スルニ、單ニ鬱血ノ様ナ器械的障礙ノミヲ以ツテ此精系靜脈瘤ノ成立ヲ説明スルコトハ出來ヌ。即チ痔核或ハ下腿靜脈瘤ノ場合ト同ジ様ニ、先天性素質ニヨリ血管壁ノ抵抗力ノ弱キ人ニノミ來ルモノラシイ。實際ニ本病ハ痔核若クハ下腿靜脈瘤ヲ有シテ居ル患者ニ發生スルコトガ多イモノデアアル。此精系靜脈瘤ノ組織學的所見ハ内膜及外膜ガ著シク肥厚シテ居ルノニ反シ中膜ノ筋層ハ萎縮シテ居ルノガ普通デアアル。自覺症トシテハ何モ著シイモノハナイ。唯長ク立ツテ居ルト、鼠蹊部ニ牽引性ノ

疼痛ヲ催スコトガアル。コノ痛ハ如何ニシテ起ルカ不明デアアルガ多分腹膜ガ鼠蹊部ヘ引張ラレル爲デアロウト云ハレテ居ル。實際此疼痛ノ強イ患者ノ外鼠蹊輪ガ擴張シテ居ルコトガ多イ。即チ輕度ノヘルニアヲ合併シテ居ルコトガ多イノデアアル。尙時トシテハ性慾ノ減少ヲ來スコトガアル。之レハ一部分ハ性的亢奮ノ際ニ屢々起ル牽引性疼痛ヲ恐レル爲メモアルガ、尙又高度ノ精系靜脈瘤ノ時ニ來ル辜丸ノ萎縮ガ其ノ原因ヲナシテオルコトモアル。尙最後ニ注意シテ置キタイノハ、元來精系靜脈瘤ハ其病理解剖學的變化カラ考ヘテモ緩徐ニ起リ慢性ニ經過スベキ筈ノモノデアアルガ、時トシテハ可ナリ急激ニ起ツテ來ルコトガアル。此様ナ急性ノモノハ多クハ症候性精系靜脈瘤デアツテ同側ノ腎腫瘍ノ如キモノガ出來テ居ル場合デアアル。

療法。輕キ程度ノモノニ對シテ性的亢奮ノ機會ヲ少クスルトカ、或ハ帶ニヨリ外カラ辜丸ヲ懸吊スルトカ、又場合ニヨリテハ陰囊ノ皮膚ノ一部分ヲ切除シテ陰囊ヲ釣り上ゲル様ナコトヲシテ居レバ年ヲ經ルニ從ツテ追々ニ輕快スルモノデアアル。

強度ノモノニ對シテハ精系靜脈ヲ切除ヲ行フ。即チ擴張シタル精系靜脈ヲ分離シ、之レヲ辜丸ノ上部ト鼠蹊輪ノ下部トニ於テ結紮シ、其中間ヲ切除シ、其兩斷端ヲ相互ニ接合セシメテ辜丸ヲ上部ヘ懸吊スル様ニスルノデアアル。尙手術ヲ行フ際ニハ辜丸萎縮ノ有無ヲ檢シ、若シ萎縮アラバ、前以ツテ之レヲ患者ニ知ラシテ置カネバナラス、然ラザレバ後日辜丸萎縮ノ原因ヲ手術ニ歸セシメラル、コトガアル。（終）